

# 第1回K-RIP環境エネルギー研究会(8月17日開催)の概要 ①

環境エネルギー分野(※1)のビジネス創出に向けた支援方法などを検討するため、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)の「環境エネルギー研究会(座長:(株)ワイビーエム代表取締役会長 吉田哲雄氏)」の第1回会合を8月17日(水)に開催しましたので、その概要を報告します。

(※1) 再生可能エネルギーを活用した環境関連機器・システムの開発、熱エネルギーの利用、省エネ・省資源製品・システムの開発やマネジメント、バイオマスの利用 等

## 第1回環境エネルギー研究会の成果

### 1. 各委員の問題意識の共有

- ▶各企業単独では、固有の強みが活かせず市場獲得が難しい。
- ▶K-RIPの環境エネルギー分野への支援(製品化、新たなビジネスモデル・サービス・ソリューションの創出、ニーズ・シーズのコーディネート等)に期待。

### 2. 他の組織との関連情報の共有

- ▶委員の中には、九経連など他の組織の環境エネルギーへの取組に参加しているメンバーが存在。各々が持つ技術シーズやビジネス等に関する情報を共有。

### 3. K-RIPの新たな展開に対するアドバイス

- ▶K-RIPのネットワークを活用した新たな支援方策等に係るアイデア等、各委員から提案。

### 4. 調査手法・内容に対するアドバイス

- ▶局が九経調に委託して実施する「低炭素関連ビジネス等市場調査(※2)」の調査手法や調査内容について、各委員から貴重なアドバイスを教授。

## 「(※2)低炭素関連ビジネス等市場調査」の検討要素抽出(イメージ)

### ニーズ

- ・湖水の省エネ浄化
- ・農場の動力設備の燃料転換
- ・ZEBへの建て替え
- ・汚泥の高効率脱水・輸送
- ・林地残材等未利用バイオマス利用
- ・インテリジェント空調・照明
- ・排水処理場での省エネ
- ・地中熱の高度利用等

### 「適切なソリューション」の要素

#### 中小企業の有望シーズ存在分野

##### 診断・計測技術要素

- ・省エネ診断、・排出量削減診断、・見える化(計測)、・省エネ制御(BEMS) 等

##### 環境技術要素

- ・マイクロナノバルブポンプ、・高濃度メタン利用技術、・高性能冷却塔、ナノ領域ガス利用水質浄化技術、・輻射熱応用、・地中熱利用 等

#### 大企業のシーズ比較優位分野

##### エネルギー技術要素

- ・ヒートポンプ技術
- ・コジェネレーション
- ・高効率インバーター制御技術
- ・蓄電池システム
- ・太陽光等再生可能エネルギー
- ・高効率エネルギーシステム(空調、給湯、地中熱、照明及び断熱部材、プロア一等で構成) 等

### 新たなビジネスモデル

- ・環境とエネルギーが複合したサービス・商品・設備導入等へのソリューション技術の提供
- ・農林水産業等への新たな省エネアプリケーションの提供
- ・先導的・試行的事業(ソリューションモデル)
- ・中堅・中小企業等が低炭素化技術を活用したソリューション市場に参入するための方策等の検討 等

# 第1回K-RIP環境エネルギー研究会(8月17日開催)の概要 ②

## 環境エネルギー研究会委員

NO	企業(団体名)	参加者氏名	担当者役職	エネルギー関係 カテゴリー
1	(株)西部技研	岡野 浩志	取締役 技術開発本部長	革新的エネルギー 高度利用技術等
2	(株)キューヘン	真武 秀和	企画部 参事	
3	(株)ワイビーエム	吉田 哲雄	代表取締役会長	
4	昭和鉄工(株)	福田 俊仁	執行役員 総合開発部長	
5	(株)正興電機製作所	松尾 聡	取締役 事業開発本部長	省エネ・新エネ 制御技術等
6	(株)安川電機	山田 達哉	インバータ事業部 環境エネルギー機器 事業統括部長	
7	西日本環境エネルギー(株)	城島 一彦	新規事業推進部長	総合省エネ・新エネ
8	環境テクノス(株)	鶴田 暁	代表取締役	コンサル等
9	NPO法人エコ診断ネットワークジャパン	藤原 洋記	理事	
10	公立大学法人 北九州市立大学	松本 亨	国際環境工学部 環境生命工学科教授	学術研究者

## 研究会開催風景



↑ 茂木資工環部長による開会挨拶



↑ 吉田座長による地中熱利用技術に関するセミナー

## 吉田座長による総括概要

▶「K-RIPの新たな展開」に関しては、スマートコミュニティへの関与、国内クレジットの活用、密度の薄いエネルギー(再生可能エネルギー)の活用、一次産業のエネルギー利用効率化、導入価格に関するエンドユーザーとの距離縮小、標準化等がキーワード。調査事業の結果等も踏まえ、第2回目の委員会までに事務局にて整理のこと。

▶「低炭素関連ビジネス等市場形成調査」に関しては、省エネの進んでいない分野等において新たなビジネスがありそうだ。ニーズサイドについては、産業用も重要であるが、業務用、農水産業分野、食品製造分野においても掘り下げた調査を実施。シーズサイドでは空調、照明等が各委員の関心の強いところ。シーズサイドのマーケットとしては技術、材料、機器、プラント、サービス等具体的なカテゴリーを明記して、調査の有効なアウトプットが得られるよう事務局にて検討。